

【概要版】
川崎市立学校における
かわさき教育DX推進方針



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

令和8年3月

川崎市教育委員会

第1章 川崎市立学校におけるかわさき教育DX推進方針の目的と位置付け

本方針の目的

これまで本市では、市立学校の教育の情報化に向けて「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を策定し、具体的な取組を推進してきました。一方で、教育の情報化をとりまくデジタル技術等は絶え間なく発展し、複数年にわたる詳細な計画や手順等を示すことが難しい時代になっています。

こうしたことから、変化の激しい時代に柔軟に対応しながら、市立学校における教育DXを進めていくための基本的な考え方と方向性を整理するものとして「川崎市立学校におけるかわさき教育DX推進方針」(以下「本方針」という。)を取りまとめ、「第3次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」(令和7年度策定)と整合を図りながら推進していきます。

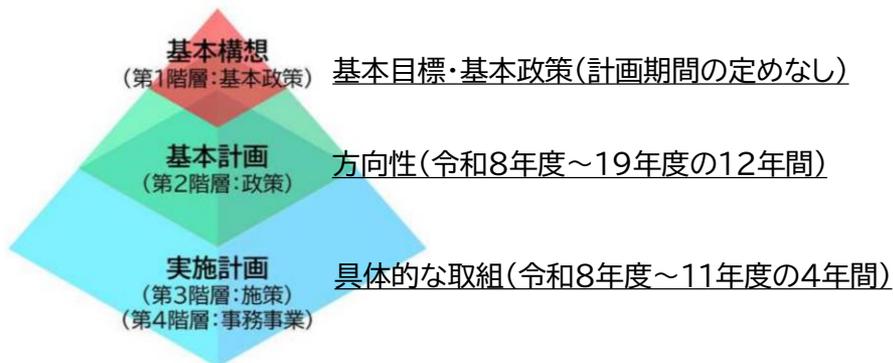
※DXはデジタル・トランスフォーメーションの略

本方針の位置付け

本方針は、「学校教育の情報化の推進に関する法律」第9条第2項の趣旨を踏まえ、本市の教育DXに関する令和8年度から令和11年度までの基本方針を示すものです。「川崎市総合計画」(令和7年度改定)及び「第3次川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン」との整合を図りながら取りまとめています。

川崎市総合計画

本市のめざす都市像である「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」の実現に向けて、「川崎市総合計画」を令和7年度に改定



川崎市教育振興基本計画かわさき教育プラン

12年の計画期間

「めざすもの」
「みんなと共有したい価値観」

4年の計画期間

実施計画

本市の教育施策を総合的かつ体系的に推進し、「めざすもの」の実現に向けて、教育基本法第17条第2項に定める教育振興基本計画に位置づけるものとして、令和7年度に策定

川崎市立学校におけるかわさき教育DX推進方針

「かわさき教育プラン」実施計画のうち「教育DX」に関する基本的な考え方と方向性を示す。

第2章 本市の状況の変化と考え方

令和8年度～11年度の施策検討に当たっての状況の変化と考え方

本市では、平成18年3月に『「教育の情報化」5か年計画』を策定して以来、定期的に計画を見直ししながら、教育の情報化を推進し、ICT環境の整備に取り組んできました。

令和3年度までの取組を示した第2期計画の期間中である令和2年度末に、コロナ禍に対応するため前倒しでGIGA端末が導入され、児童生徒の学びに大きく影響を与えたため、令和4年度から7年度までの計画では、GIGA端末が計画の中心となりました。

令和8年度から11年度までの方針を検討するに当たっては、GIGA端末だけでなく、急速に進展し、子どもの学びに大きく影響する生成AIやデータ利活用、重要性が高まるセキュリティも、各取組を検討する際に不可欠な要素となります。方針の取組期間においては、単にデジタル機器やクラウドサービスを導入するだけでなく、それらを有機的に連携させた活用により、GIGA端末を活用した学びの質の向上をめざすとともに、教職員の業務を効率化することで、教育の在り方そのものをより良い形に変えていく「教育DX」の取組を進めていくことがより一層必要となります。

また、教育DXの全体的な検討に先立ち、子どもたちの学びの中心であり、デジタル学習の基盤となる「かわさきGIGAスクール構想」について、導入から5年が経過した今、現状に即した見直しが必要となっています。

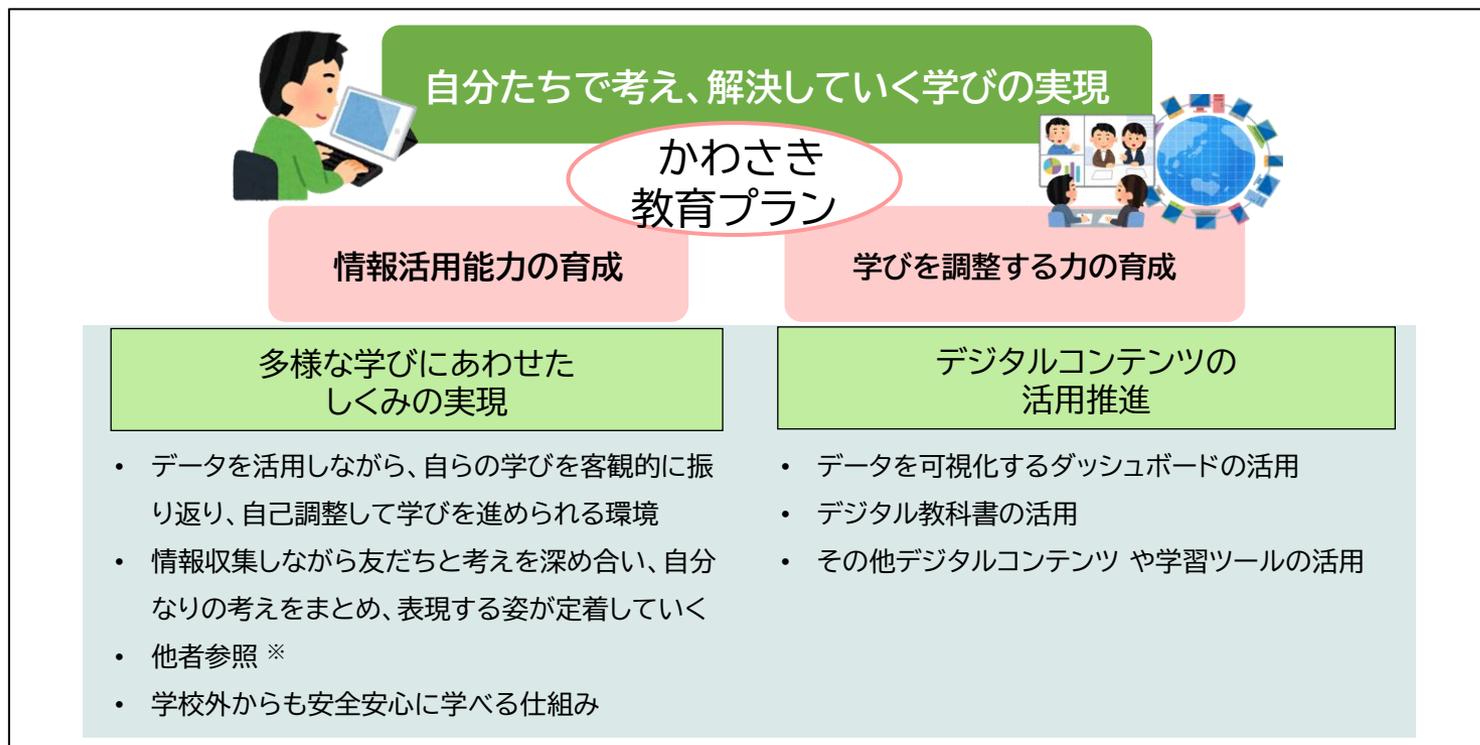


子どもの学び(かわさきGIGAスクール構想)について

「かわさきGIGAスクール構想」は、「かわさき教育プラン」の改訂に伴う時点修正を行い「自分たちで考え解決していく学び」をめざす姿とするとともに、本教育DX推進方針を構成する一部として改めて整理し、特に「情報活用能力」と「学びを調整する力」を重点的に高め、一層学びの質を高める取組を引き続き推進していきます。

なお、「かわさきGIGAスクール構想」では、ステップ1、2、3と段階的に端末の使い方を習得しながら、端末を使ってどのように学んでいくのかという方法を推進してきました。これまで推進してきたステップ1や2については、小学1年生や1年目の教職員などを中心に、端末の操作に慣れる段階から、継続して取り組んでいきます。

【詳細】かわさきGIGAスクール構想ステップ3(令和8年3月更新)



※ クラウド上で作成された友だちの考えや成果物を参考にしながら、自分の考えを広げたり深めたりするきっかけとすること。

第3章 これからの方向性

本方針の全体像

社会のデジタル化が進展する中で、これまで「かわさきGIGAスクール構想」で推進してきた「子どもの学び」と、それを支える「教職員の業務効率化」及び「教育DX推進のためのICT基盤整備」の3つの観点とそれを支える11の項目を設定します。なお、「かわさきGIGAスクール構想」は、本方針に包含することとし、下表に示す「子どもの学び」の観点の4項目の方向性に基づき、取組を進めていくこととします。



次の観点と項目ごとに方向性を整理し、取組を進めていきます。

観点	項目	
子どもの学び (かわさきGIGAスクール構想)	1	児童生徒によるデータ利活用の推進
	2	情報活用能力(情報モラル及び生成AIの利活用を含む)の育成
	3	多様な学びにあわせたしくみの実現
	4	デジタルコンテンツの活用推進
教職員の業務効率化	5	教職員によるデータ利活用の推進
	6	クラウドツールの活用推進
	7	生成AIの活用による業務支援
	8	クラウド型校務支援システムの整備
教育DX推進のためのICT基盤整備	9	GIGA端末の着実な更新
	10	強固なアクセス制御環境の構築と端末及びネットワークの統合
	11	レジリエンスの確保

第4章 本市の教育DXに向けた取組の方向性

観点	項目		取組の方向性
(かわさき)子どもの学び GIGAスクール構想	1	児童生徒によるデータ利活用の推進	蓄積した教育データを分析し、可視化するツール(ダッシュボード)を習慣的に活用するために、効果的な活用例を児童生徒に広めるとともに、市学習状況調査をCBT化して、結果を端末で確認することができるようにするなどの取組を進めます。
	2	情報活用能力(情報モラル及び生成AIの利活用を含む)の育成	体系的なカリキュラムを検討し、教職員の情報活用能力育成の指導力向上に資する研修を進めます。
	3	多様な学びにあわせたしくみの実現	時間や場所を始め、多様なニーズに対応可能な柔軟な環境整備と運用ルールを検討し、好事例の創出による現場支援体制の強化を図ります。
	4	デジタルコンテンツの活用推進	教職員に対してデジタルコンテンツの仕組みの理解を深めるための研修等を実施し、児童生徒には効果的に活用するための資料を提供するなどの取組を行います。
教職員の業務効率化	5	教職員によるデータ利活用の推進	既にある教育データを分析し、可視化するツール(ダッシュボード)をより活用するための研修を実施するとともに、データ連携による新たな有効活用を検討していきます。
	6	クラウドツールの活用推進	教職員が、採点ソフトなどを活用し、児童生徒と向き合う時間を確保し、コミュニケーションツールにより学校・家庭・地域など多様な主体との連携協働を進めます。
	7	生成AIの活用による業務支援	教職員向け研修の充実、参考となる事例を広め、安全な活用環境や運用ルールの整備を進めます。
	8	クラウド型校務支援システムの整備	安全と使いやすさを意識したクラウド型校務支援システムの整備推進による校務のロケーションフリーの実現、USBメモリ等の可搬媒体使用の原則廃止に取り組みます。
教育DX推進のための ICT基盤整備	9	GIGA端末の着実な更新	児童生徒のGIGA端末を使った学びを中断することなく着実に更新します。
	10	強固なアクセス制御環境の構築と端末及びネットワークの統合	多要素認証などのシステム整備により、高いセキュリティを確保し、安心安全な環境の構築を進めます。
	11	レジリエンスの確保	クラウド利用の推進、災害耐性に優れた本庁舎へのサーバー・ネットワーク拠点機能の移転検討など、レジリエンス※を意識したICT環境整備を進めます。

※ システムやネットワーク、ソフトウェアなどが障害・攻撃・予期せぬ事態に直面しても、機能を維持し、迅速に回復できる能力